6-8　実践協力校における授業実践
事例⑧　清川村立緑中学校
3年生　社会科〔公民的分野〕

ポイントになる主な学びのプロセス

- **自分の身の周りのできごとに関心をもつ**
- **学級、学校、地域等の課題に気付く**
- **他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**

Ⅰ　単元計画

1．単元名　中学校第３学年　社会科　公民分野「地方自治と私たち」

2．単元の目標

・地方自治の意義について理解し、関連づけながら、清川村の課題(人口を増やすにはどうすればよいか)について住民の一人としてとらえ、調べた内容や資料、他者の意見を参考に自分の考えを構築し、清川村の発展に寄与しようとする自治意識をもつ。

3．単元の指導計画（５時間扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
1	◇過疎地域について学び、清川村の人口の現状を知ることで、地域の課題に気付く。 ◆「清川村人口ビジョン」から人口の現状について資料から読み取る。
2	◇清川村の人口の現状や増やすための対策を役場の方から聞き、地域の課題について理解を深める。 ◆資料や説明から清川村の人口について知り、現在の対策を学ぶ。
3	◇清川村の人口の現状を知ったうえで、住民としての視点を持って課題についての考えを構築する。 ◆班ごとに対策を考える上で資料や説明から清川村の人口について知り、現在の対策を学ぶ必要な情報を集める。
4	◇前時までに調べた内容や資料をもとに、班で話し合うことで、住民としての視点を持って課題についての考えを構築する。 ◆調べた内容や持っている情報をもとに対策を考え、班ごとにまとめる。
5本時	◇他の班の発表や周囲の生徒の意見を参考に、課題について、個人としての考えを再構築し、清川村の発展に寄与しようとする自治意識を持たせる。 ◆班ごとに発表し、あがった意見の中で人口を増やすための対策を個人で考える。

Ⅱ　本時の様子

1．本時の目標　〇今後、自分がどのように地域の政治に関わっていくかを考え、主権者としての意識を持つ。

2．本時の展開

「政治的教養を育む教育」で身に付けさせたい力の視点

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	〇本時の内容の確認 ・本時の課題を確認する。 ＊本時の終末に、課題について自分自身の意見をまとめることを示す。 **清川村の人口を増やすには？**	身近な地域の政治に関心を持ち，自分も住民の一人として住民自治を担う存在であることに気づいている。(関心・意欲・態度)
展開	〇前時のグループ協議をふまえ、グループごとの案を発表する。 ・発表の手順について、確認する。 ・前時にまとめたホワイトボードをもとに、グループ内で発表の最終確認をする。 ・各グループの発表に対し、質疑応答を行う。 〇各班の机上にホワイトボードを置き、自由に席を回りながら、個人のワークシートに各班の意見をメモし、必要に応じて、意見交換を行う。	自分の身の周りのできごとに関心をもつ 地域等の課題に気付く 他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する
まとめ	〇本時のグループワークを通して、課題について振り返る。 ・各グループの発表した案や、意見交換した内容を参考に、課題について改めて個人で考え、ワークシートに記入する。	**目指す子どもの姿** 自分たちの住む清川村の将来に関心をもち、調べたことを根拠にしながら、自分の考えをもち、他者との話し合いにより、自分の考えを深めていく姿。

Ⅲ　研究協議



1．自評

〇単元構想のきっかけは、生徒の「(清川村の) 人口が 3000 人を切るか」という会話である。生徒たちに「自分のこと」として考える切実感を持ってほしかったので、「清川村人口ビジョン」を活用し、さらに村の移住・子育て支援・補助制度について、村役場の職員にゲストティーチャーをお願いした。その後に、他地域の人口減少対策を調べ、グループで協議することで現実的な提案も可能になった。ここで提案された案は、清川村役場の担当者に伝えることになっている。自分たちの住む清川村のことを大切に思い続ける生徒の姿をめざしたい。

2．研究協議のテーマ

〇地域社会の問題を自分のこととしてとらえ、今後の社会参画に向かうための手立てと工夫

3．研究協議の成果と課題

成果・授業者は、小学校段階で実施された「子ども議会」を踏まえた上で、発達段階に応じたテーマ設定を行っていた。政治的教養を育む教育においては、小・中学校の接続を考慮した授業計画を行うことが重要である。

・当事者意識を持って考えやすいテーマ設定をすることで、生徒たちの話し合いが活発になる。

課題・生徒たちが実感として不便に思う交通網に関わる意見が多かったが、もっと多角的な視点（移住者や役場の職員、企業等）があれば、さらに深い議論が可能となる。

・生徒たちの課題がはっきりした段階で、ゲストティーチャーとの対話を行うと、より現実的な提案を考えることができる。

Ⅳ　実践協力校での授業実践を基にした指導事例

H30-4　中学校３年生　社会科[公民的分野]　指導事例
「地方自治とわたしたち～人口減少を食い止めるには？」

【単元目標】

・地方自治の意義について理解し、関連させながら、身近な地方自治体の課題（例：人口を増やすにはどうすればよいか）について、住民の一人としてとらえ、調べた内容や資料、他者の意見を参考に自分の考えを構築させ、「まち」の発展に寄与しようとする自治意識を持たせる。

【目指す子どもの姿】

・自分たちの住む地方自治体の将来に関心をもち、調べたことを根拠にしながら自分の考えをもち、他者との話し合いにより自分の考えを深めていく姿。

１　本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学　習　活　動（全５時間）	ポイントになる学びのプロセス
地方自治体の人口の現状を学ぶ（課題設定）① **○自分たちの住む地方自治体の人口問題について、資料から読み取り、課題を認識する。** Ｓ：やっぱり、人口が徐々に減少しているんだ。何か手を打たないと…。 **地方自治体における人口の現状や増やすための対策について知る①** ○地方自治体に勤めている方から話を聞き、現時点での人口減少対策を理解する。 **現時点や将来取るべき対策について、必要な情報を収集する①** Ｔ：人口減少を食い止めるための対策案を考えて、役場に提案することにしよう。 Ｓ：高齢者が多いから、働く世代が移住してくれるまちになるといいな。 Ｓ：まちに働く場所が必要だね。 Ｓ：まちの外に働きに行くにしても、交通の便を良くしないとね。駅の新設は難しいから、まずはバス便を増やすべきだけど、むしろ減っているよね……。 Ｓ：移住を考えている人たちに、このまちの魅力を発信して、「このまちに住みたい」と思ってもらうには、どうしたらいいかな。 **Ｔ：地理で学んだように、他にも同じように人口減少に悩んでいるまちがあったはずだよ。それらのまちの対策を調べたら、課題解決のヒントが見つかるかもね。** **班で調べた情報をもとに、課題解決案を作成する①** ○ゲストティーチャーの話や、前時までに調べた情報をもとに、課題に対する解決案を考え、班ごとにホワイトボードにまとめる。 **班での発表や意見交換をへて、自分の考えを再構築する①** Ｔ：まずは班ごとに、解決案を発表し、その後で、意見交換の時間をつくるから、自由に別の班のところに移動して、各班の意見をメモしよう。もちろん、質問したり、別のアイデアを出したりしてもいいよ。 Ｓ：電気自動車のみの購入補助をすべての乗用車に拡大することを提案します。 Ｓ：町の住民のみ、バス運賃を一律補助することを提案します。 Ｓ：空き家を活用して、家賃の安い住宅として提供することを提案します。 Ｓ：まちの魅力である農産物や自然をアピールするイベントを提案します。…… Ｔ：みんなで出した案を役場の人に伝えるけど、それでこの問題は終わりじゃない。対策を進めても、みんなが大人になるまでに結果が出ないかもしれない。授業が終わっても、中学校を卒業して、仮に将来まちを出ていくことになっても、この問題は続いていくから、これからもこのまちのことを考え続けてほしい。	**ポイント１** **○自分の身の周りのできごとに関心をもつ** **ポイント２** **○地域等の課題に気付く** **ポイント３** **○他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**

2　政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

地方自治体が発行する資料を教材として効果的に活用し、関心を高めましょう。

地方自治の学習では、地域の情報に関心をもたせることが大切です。地域の課題を取り上げた教材を効果的に活用することで、生徒の関心が高まります。本事例では村の人口減少問題が取り上げられていますが、その他、市町村合併問題・条例の制定に関わる住民投票など、地域の実態に合った教材を設定することが考えられます。



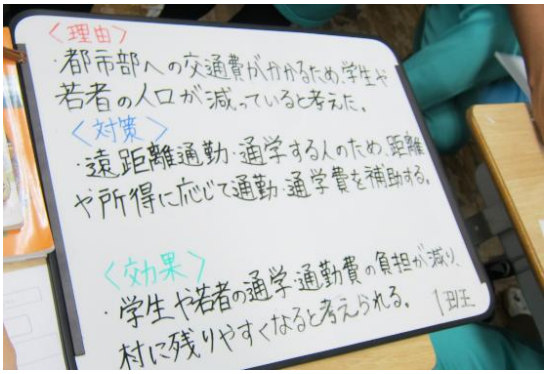
多くの地方自治体では、その地方自治体の基本計画や課題に対する政策について、冊子にまとめたりホームページで紹介したりしています。地域の課題を映し出す教材を効果的に活用することで、生徒の関心を高めましょう。

また、本事例では、村役場の職員をゲストティーチャーに招いています。地域の課題に取り組む人の思いに直に触れることで、地域の課題をより身近に感じる効果も期待できます。

ポイント1～3

当事者意識（自分のこと）を持ち、地域の課題を考え続ける姿勢を育みましょう。

身近な地域の課題は、交通の利便性等の中学生にも実感しやすい課題だけでなく、企業の誘致や子育て支援策等、様々な課題が考えられます。それらの様々な課題は、中学生にとって本当に「自分のこと」として実感を伴ってとらえられているとは限りません。



「自分のこと」として地域の課題を考え続ける姿勢を育むためには、一つの単元や教科にとどまらず、また、小学校段階から身近な地域について学ぶ機会をとらえ、自分たちの住む「まち」について、自分たち自身で考えたり、関わったりする必然性のある課題を設定することが効果的です。

しかし、そのような課題の多くは、すぐに解決できない場合が多いのではないでしょうか。そこで、様々な解決策を皆で持ち寄り、それらを吟味し、ねばり強く課題の解決に向けて追究し続けるという姿勢を育むことが求められます。そして、その姿勢は「政治的教養を育む教育」における多面的・多角的に課題をとらえ、よりよい社会をつくるために主体的に社会に参画する姿勢へとつながっていくのです。